

- 肢体不自由児施設版 -

事業プロフィール

1.事業所名 :

2.(1)運営主体(法人名等) :

(2)設置主体 :

3.事業所所在地 :

4.事業所の長の氏名(施設長等) :

5.連絡先

Tel

Fax

Eメール

ホームページ

6.同一運営主体が同じ敷地内で連携して実施している、主な福祉・医療サービス事業を利用者数からみて上位5つ以内(例:更生施設(通所)など、評価対象事業を含む。)

1)

2)

3)

4)

5)

7.同一運営主体が同じ敷地内で連携して実施している全事業のうち、今回の評価対象サービス事業が占める割合

収入面でみて 約 \_\_\_\_\_ %

職員数でみて 約 \_\_\_\_\_ %(非常勤は常勤換算)

8.当該事業の開始時から現在までの重要な変遷(制度改正に基づくもの含む)

(1)開始時期 年 月

(2)重要な変遷

## 9.理念・方針

事業所が大切にしている考え(事業所の理念・ビジョン・使命など経営・運営方針)のうち、特に重要なもの(上位5つ以内)を簡潔に記述

(例.基本的人権の尊重、利用者の立場になって考える、職員満足の向上、地域社会への貢献など)

- 1)
- 2)
- 3)
- 4)
- 5)

## 10.サービス提供の考え方について記述(日々の業務の考え方、利用者ニーズに合わせた施設独自の取組、利用者や家族との関係、地域との関係を含む)

## 11.期待する職員像

(1)職員に求めている人材像や役割

(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)

12.職員の状況

(1)常勤職員数 \_\_\_\_\_人

<内訳>

職種名	人数	職種名	人数	職種名	人数
医師		児童指導員		PT・OT・ST	
歯科医師		療育員		心理	
看護師		薬剤師		調理員	
准看護師		栄養士		事務員	
保育士		放射線技師			
介護福祉士		検査技師			

(2)非常勤職員数 \_\_\_\_\_人(常勤換算 \_\_\_\_\_人)

(計算式:非常勤職員のそれぞれの勤務延べ時間数の総数÷当該事業所の常勤職員が勤務すべき時間数)

施設内兼務職員は非常勤職員に算入すること。

<内訳>

職種名	人数	職種名	人数	職種名	人数
医師		児童指導員		PT・OT・ST	
歯科医師		療育員		心理	
看護師		薬剤師		調理員	
准看護師		栄養士		事務員	
保育士		放射線技師			
介護福祉士		検査技師			

(3) 非常勤職員の勤務形態と業務内容

\* 職員種別は、パート、アルバイト、派遣、契約等、施設で通常使用している呼称でご記入ください。

職員種別	人数	勤務形態 (勤務時間、シフト)	業務内容

(4) 当施設での勤務 1年以内の者 採用 常勤： 人 ・ 非常勤： 人  
退職 常勤： 人 ・ 非常勤： 人

(5) 常勤職員の平均年齢 \_\_\_\_\_ 歳

(6) 常勤職員の男女比 男性 \_\_\_\_\_ % / 女性 \_\_\_\_\_ %

(7) 常勤職員の平均在職年数 \_\_\_\_\_ 年 (現在の事業所での在職年数とする)

(8) 直接処遇職員 (看護師・准看護師・保育士・児童指導員・療育員等。非常勤は常勤換算)

1人当たりの利用者数 (計算式: 定員 ÷ 直接処遇職員数) \_\_\_\_\_ 人

13. 現在のサービス提供能力と利用者数 (以下のどれかに つける)

1) 待っている人がかなりいる

2) 待っている人はほとんどいない

3) 入所者数に余力があり、希望者があれば受け入れたい

4) その他 ( \_\_\_\_\_ )

14. 3年後の見通し(以下のどれかに をつける)

- 1) 施設規模を拡大する計画がある
- 2) サービス提供能力を拡大する計画はないが、ほぼ現在のサービス提供能力に見合う利用者数は維持できると思う
- 3) 現在の利用者数を維持するのは余程経営改善・サービス改善をしていかないとかなり難しい情勢になっているのではないかと思う
- 4) その他 ( )

15. 評価対象としているサービス事業に関して事業所として力を入れて取り組んでいる点を、人的サービス面と設備面に分けて、重要な順に各3つ以内で記述

人的サービス面

- 1)
- 2)
- 3)

施設 設備面

- 1)
- 2)
- 3)

16. 経営に影響を与えていると考えている事業環境の変化を記述 (制度改正を含む)

17. 評価対象としているサービス事業を維持・向上させていくためにこれから何をしていかなければならないかについて、重要な順に3つ以内で記述

(例 . 経営改善への職員の参画、職員の能力開発、後継者の育成、給与制度の改善、施設間交流、入浴施設の拡張など)

- 1)
- 2)
- 3)

18. 定員および現在の利用者

(1) 定員 \_\_\_\_\_ 人 (措置分)

(2) 過去1年間の稼働率 (延べ利用者数 / 定員 × 365日) 約 \_\_\_\_\_ % (短期入所分除く)

(3)過去1年間の入退所者数(措置者)

入所 \_\_\_\_\_人

退所 \_\_\_\_\_人

主な退所理由 1. \_\_\_\_\_ ( 人)

2. \_\_\_\_\_ ( 人)

3. \_\_\_\_\_ ( 人)

(4)平均在園期間

\_\_\_\_\_年 月

(5)現在の利用者の状況

現在の利用者数 \_\_\_\_\_人

男女比 \_\_\_\_\_男性 % / 女性 %

年齢別内訳

年齢	0-5	6-11	12-14	15-17	18-20	21-
男性						
女性						

身体障害者手帳取得状況

	1級	2級	3級	4級	5級	6級	手帳なし
男性							
女性							

愛の手帳取得状況

	愛の手帳1度	愛の手帳2度	愛の手帳3度	愛の手帳4度	手帳なし
男性					
女性					

大島分類による利用者の状況

(枠内の数字は区分。括弧内は女性の内数。知能正常者は枠上に記入)

(IQ) <知能>  
正常

( ) ( ) ( ) ( ) ( )

85

21	22	23	24	25	境界
20	13	14	15	16	70 軽度
19	12	7	8	9	50 中度
18	11	6	3	4	35 重度
17	10	5	2	1	20 最重度

↑運動  
↓

走れる

歩ける

歩行障害

座れる

寝たきり

利用者の住所 (措置実施区市町村)

区市町村名	人数	区市町村名	人数	区市町村名	人数

おむつ使用者 (計算式 : 常時使用者 ÷ 現員数 × 100、夜間使用者 ÷ 現員数 × 100)  
(常時 \_\_\_\_\_ %、夜間のみ \_\_\_\_\_ %)

人工呼吸器使用者 \_\_\_\_\_ %  
(計算式 : 人工呼吸器使用者 ÷ 現員数 × 100)

何らかの補装具を使用している人 \_\_\_\_\_ %  
(計算式 : 何らかの補装具を使用している人数 ÷ 現員数 × 100)

車椅子を使用している人 \_\_\_\_\_ %  
(計算式 : 車椅子を使用している人数 ÷ 現員数 × 100)

その他の身体状況 ( \_\_\_\_\_ )

食堂 (ダイルーム) で食事をする人 \_\_\_\_\_ %  
(計算式 : 食堂 (ダイルーム) で食事をする人数 ÷ 現員数 × 100)

身体の行動制限を行っている人 \_\_\_\_\_ %  
(計算式 : 身体の行動制限を行なっている人数 ÷ 現員数 × 100 行動制限の割合は  
問わず、行動制限の対象となっている人はすべて1名として計算する)

就学状況

・ 施設内学級 有 ・ 無

有の場合 在籍者数

(小学校 \_\_\_\_\_ 人 中学校 \_\_\_\_\_ 人 高校 \_\_\_\_\_ 人)

・ 通学者数 (小学校 \_\_\_\_\_ 人 中学校 \_\_\_\_\_ 人 高校 \_\_\_\_\_ 人)

母子入園 有 ・ 無

有の場合 定員 \_\_\_\_\_ 床

## 19. 施設の状況

(1) 居室の状況 (トイレの面積を含む。)

定員 1人当たり居室面積 (計算式 : 居室面積合計 ÷ 定員) \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>/人

定員 1人当たりダイルーム面積 (計算式 : ダイルーム面積合計 ÷ 定員) \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>/人

個室以外の場合の間仕切りの有無 1. 有 2. 無

有の場合 (該当に ): 1 カーテン 2 その他 (具体的に: \_\_\_\_\_)

(2) 食堂の状況

食堂の数 \_\_\_\_\_ 力所

定員 1人当たりの食堂面積 (計算式 : 食堂面積合計 ÷ 定員) \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>/人

(3) 建物等の状況

建築 (含大改築) 後の経過年数 \_\_\_\_\_ 年

建物の形態 ( \_\_\_\_\_ 階建)

入所施設の使用階数 ( \_\_\_\_\_ 階 ~ \_\_\_\_\_ 階)

3年以内の大改築計画の有無 1. 有 2. 無

(4) 立地条件や料金など

交通の便

\_\_\_\_\_ 駅から 徒歩・バス・その他 ( \_\_\_\_\_ ) で \_\_\_\_\_ 分

バス停 \_\_\_\_\_ から 徒歩 \_\_\_\_\_ 分

